

競技注意事項

1 競技規則について

本大会は、2023年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則、本大会要項及び競技注意事項を適用する。

2 競技場使用について

- ウォームアップは、補助競技場を原則とする。練習は係員の指示によって行うこと。
 - 1～2レーンは周回練習のみ、3～4レーンは短距離練習のみの使用とする。
 - スターティングブロックを使用してのスタート練習は多目的広場側直走路5～10レーンのみとする。
 - 多目的広場側直走路7・8レーンは女子100mH、9・10レーンは男子110mHとする。
 - リレー練習は用器具倉庫前第2コーナー付近で行うこと。第4コーナー付近でのリレー練習は禁止とする。
 - メディシンボールやミニハードル等、競技場備え付けの用具以外は使用禁止とする。
- 棒高跳は競技開始60分前から競技場内で練習できる。
- 砲丸投の練習については、補助競技場内トラック外側の砲丸投ピットのみとする。
- 練習および競技で使用したマーカー（テープ類）は、必ず使用後に各自で処理すること。
- 雨天時に限り、雨天練習場を開放する。雨天練習場の使用は、体操、ストレッチ、動き作り、ジョギング程度とし、スパイクを履いての走行や、器具（ミニハードルやメディシンボール等）を使用した練習は禁止する。なお、雨天練習場への出入りは、第2ゲート側からのみとする。
- 全天候走路であるため、スパイクのピンの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳は12mm以下とする。また、スパイクピンの本数は11本以内とする。

3 選手招集について

- 招集所は、競技場第2ゲート（1500mスタート地点）付近に設ける。ただし、棒高跳については現地で招集を行う。
- 招集開始時刻および招集完了時刻は次のとおりとする。※ タイムテーブルを参考にすること。

		招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技		競技開始 30 分前	競技開始 20 分前
フィールド競技	棒高跳 以外	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前
	棒高跳	競技開始 70 分前	競技開始 60 分前

- 招集の手順
 - 競技者は、招集開始時刻までに招集所に集合し、最終点呼を受ける。その際、競技役員にアスリートビブスとスパイク、衣類および競技場内へ持ち込む物品等の確認を受けた後、競技役員の指示に従って入場する。（携帯電話や通信機器および音楽再生機等は持ち込めない）
 - 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技に出場できない。
- 2種目を同時に出場する競技者（リレー重複者）は、あらかじめその旨を本人または代理人が競技者係に申し出る。2種目同時に出場する場合は、トラック競技を優先する。
- リレー種目に出場するチームは、招集完了時刻の1時間前（女子14：45、男子15：00）までにオーダー用紙を競技者係まで提出する。オーダー用紙は招集所に準備する。なお、一度オーダー用紙を提出したら、その後の変更は招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。
- やむを得ず棄権する場合は、競技者係に申し出る。

4 競技について

- スタートの合図は英語とする。不正スタートについては、1回目から失格とする。
- 予選におけるトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で表す。トラック競技の決勝については、主催者側が公平に抽選し、その結果を大型映像及び番組編成表示板に掲示する。
- トラック競技の決勝進出者については、プログラム（競技日程）に示しているとおりにする。なお、同記録着差なしの場合は、日本陸連競技規則に準じて決勝進出者を決定する。ただし、1年男女1500m、2年男女1500m、男女4×100mリレーについてはタイムレース決勝、男子3000mについては、決勝レースのみとする。
- レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- 短距離種目では、事故防止のため、フィニッシュ後も自分に割り当てられた走路（曲走路）を走る。
- リレー競走においては、チームの出場者は同一のユニフォームを着用する。
- リレー競技のマーカーの使用は1カ所とする。マーカーは各チームで準備し、使用したマーカーはそのチームで処理する。
- 競技場内での跳躍、投てきの公式練習は、審判員の指示によって行う。
- 走幅跳、三段跳、砲丸投は3回の試技を行い、上位8位を決定する。上位8位の者は、さらに3回の試技を行い順位を決定する。
- 三段跳においては、踏切板から砂場までの距離を9mとする。
- フィールド競技における助力は、観客席に設けられたコーチ席（コーチング・ゾーン）でのみ認める。競技区域の外にいる者によって録画されたそれ以前の試技の映像を見ることは認めるが、その録画再生機器や録画映像を競技区域内に持ち込むことは認められない。また、選手が機器等を手に持って画像を確認することはできない。

- (12) 携帯電話等の通信機器、ビデオ・デジタルカメラ等を競技場内に持ち込むことはできない。
- (13) フィールド競技における競技中の選手への水分の差し入れについては、競技該当審判員を通じて選手に手渡すことができる。

5 競技用シューズについて

- (1) WA承認リストにあるシューズを使用していることを前提に、招集所での計測を実施しない。ただし、審判長の権限により、靴底の計測を求められた場合は計測する。計測の内容としては、TR5. 13. 3（国内TR5. 2）にある厚さ等を確認する。

6 競技場への入退場について

- (1) 競技場への入場はすべて係員の誘導に従うこと。
※ 競技場所においても、直前の点呼があるので競技場所から無断で離れないこと。
- (2) トラック競技の出場者は、フィニッシュライン到着後、係員の誘導によって退場する。
- (3) フィールド競技の出場者は、係員の指示に従って退場する。

7 アスリートビブス（ナンバーカード）について

- (1) アスリートビブスは、大会当日の受付時に各地区専門委員より配付されるものを用いること。各種目に出場の際は、ユニフォームの胸と背に確実につけること。ただし、跳躍競技の出場者は胸または背のどちらか一方でもよい。
なお、アスリートビブスは、大会終了時に各地区専門委員まで返却すること。
- (2) トラック競技に出場する競技者は、腰ナンバー標識を選手招集所で受け取り、ランニングパンツ左右やや後方に取り付け、競技終了後係員に返却する。
- (3) 男子 3000mについては、別ナンバーカードを招集所で受け取り、胸と背につけること。

8 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方について

- (1) 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方は、最後の1人になるまでは次のとおりとする。

走高跳	男	125(練習)	130	135	140	145	150	155	160	163	以差3cmごと
	女	115(練習)	120	125	130	135	140	143	146	149	以差3cmごと
棒高跳	男	220(練習)	230	240	250	260	270	280	290	300	以差10cmごと
	女	150(練習)	160	170	180	190	200	210	220	230	以差10cmごと

- (2) 棒高跳の支柱移動は、口頭で競技役員に伝える。

9 競技用具について

- (1) 競技に使用する器具は、すべて主催者が用意したものを使用する。ただし、棒高跳用ポールについては、検査において合格したものに限り使用が認められる。個人所有のポールの検査は、最終点呼時に跳躍審判員が行う。
- (2) 練習用としても個人の用具を競技場に持ち込んではいならない。

10 表彰について

- (1) 各種目の表彰は1～3位まで行う。入賞者は決勝終了後、入賞者控所で待機し、係員の指示に従うこと。表彰の際は、ユニフォーム以外の各校で認められた服装とすること。
- (2) 新記録樹立者には新記録賞を授与する。

11 応援横幕・のぼり旗、個人テントの設置について

- (1) 応援横断幕・のぼり旗の設置場所は以下のとおりとする。
 - ・応援横断幕 … バックスタンド・サイドスタンド最上段通路手すり部分（8m以内）
バックスタンド中段通路手すり部分（5m以内）
 - ・のぼり旗 … バックスタンド・サイドスタンド最上段通路手すり部分
- (2) スタンド等の通路をさえぎる状態での設置はしないこと。
- (3) 設置についてはロープ等を使用すること。粘着テープ等の使用は禁止する。
- (4) 個人名の入った応援横断幕・のぼり旗等は許可しない。
- (5) 本競技場内に個人テントを設置する場合は、バックスタンド及びサイドスタンド中段通路より上、または周辺道路の交通の妨げとならない場所に設置すること。

12 その他

- (1) 開閉会式は実施しない。
- (2) 応急処置を要する場合やその他健康上の問題が発生した場合は、正面スタンド下の医務室まで連絡すること。
- (3) 記録は大型映像とアナウンスにて発表する。メインスタンド下、正面玄関付近での記録掲示は行わない。なお、記録速報を愛媛陸協HIPから確認できる。番組編成表は、選手招集所に掲示する。
- (4) スタンド等で出たごみは、各校で必ず持ち帰ること。